

第3回採用力検定試験（基礎）の概要

2021年10月5日

一般社団法人日本採用力検定協会

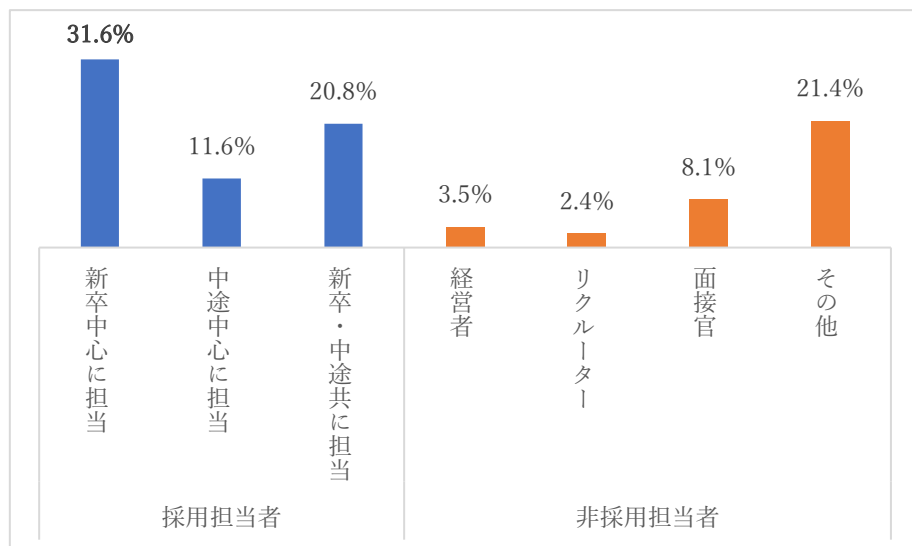
このたび日本採用力検定協会では第3回採用力検定試験（基礎）（以降、第3回採用力検定）を実施しました。本資料では、第3回採用力検定について、どのような人が受験したか、正答率はどの程度であったか、難易度や事前学習は行っていたかといった観点で、受験結果を整理しています。

1. 受験者の内訳

初めに、第3回採用力検定の受験者に関する特徴を紹介します。

◆採用との関わり方

現在の採用業務への関わり方については、採用担当者の受験が全体の半数以上を占めていました。とりわけ、新卒採用を中心に担当する方が相対的に多くみられます。一方、採用担当者ではない方も、合わせて3割程度、受験しています。



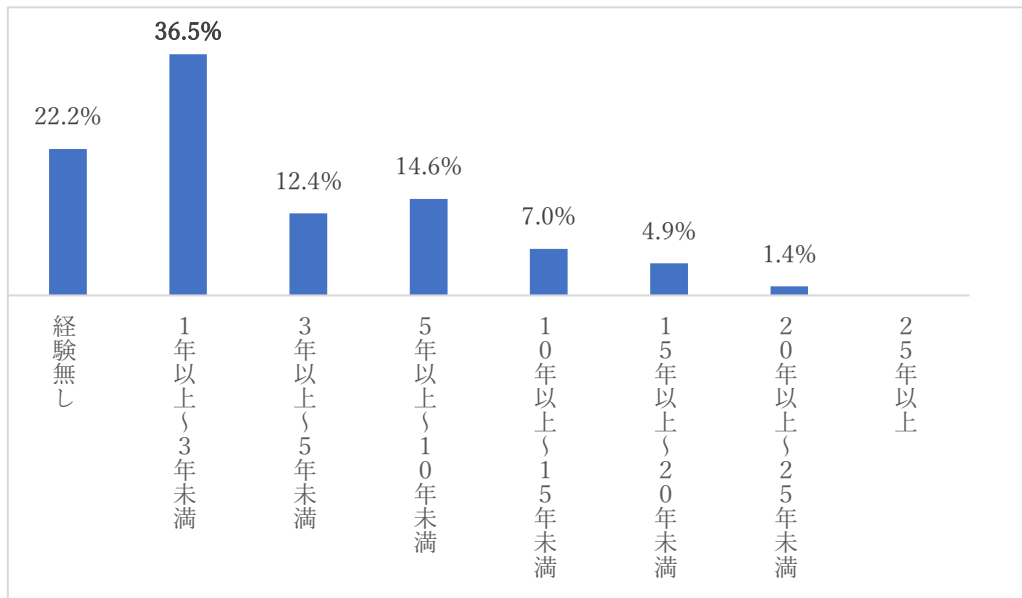
質問2（現在、「採用」にどのように関わっていますか）の回答分布¹²

¹ 実際の選択肢はグラフ左から順に「採用担当で、新卒中心に担当」「採用担当で、中途中心に担当」「採用担当で、新卒・中途ともに担当」「採用担当ではなく、経営者」「採用担当ではなく、リクルーター」「採用担当ではなく、面接官」「採用担当ではなく、その他」である。

² 欠損値（0.5%）は除外しているため、合計は100%にならない。

◆人事の経験年数

採用を含む人事労務経験年数については、10年未満の受験者が約7割を占めていました。特に「1年以上3年未満」の受験者が多く、業務を一通り経験した後に受験している様子が見えます。人事の経験がない方も2割ほど、受験していました。



質問3（採用を含む、人事労務経験年数は何年ですか）の回答分布³

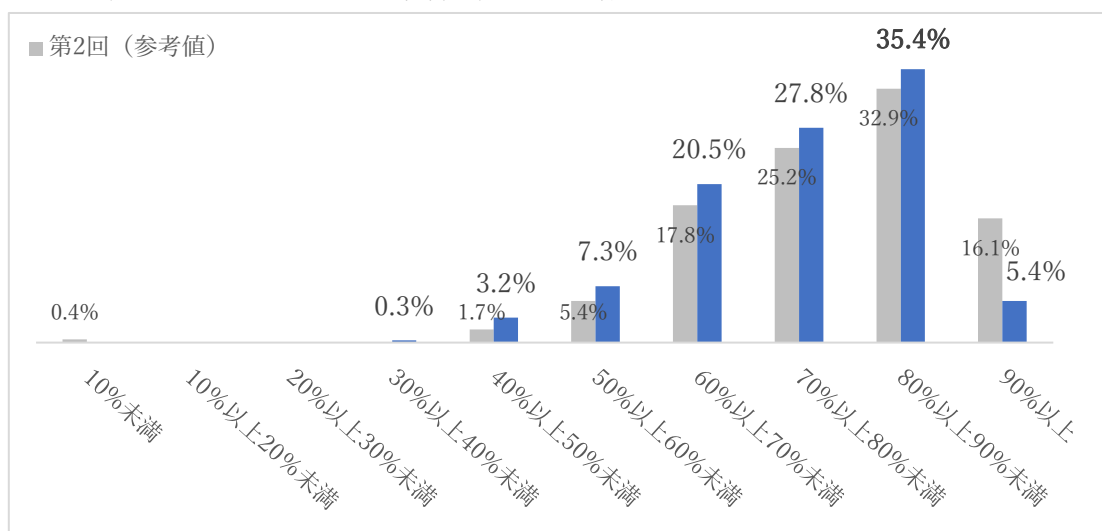
³ 欠損値（1.1%）は除外しているため、合計は100%にならない。

2. 正答率

続いて、第3回採用力検定における正答率について紹介します。

◆正答率の平均

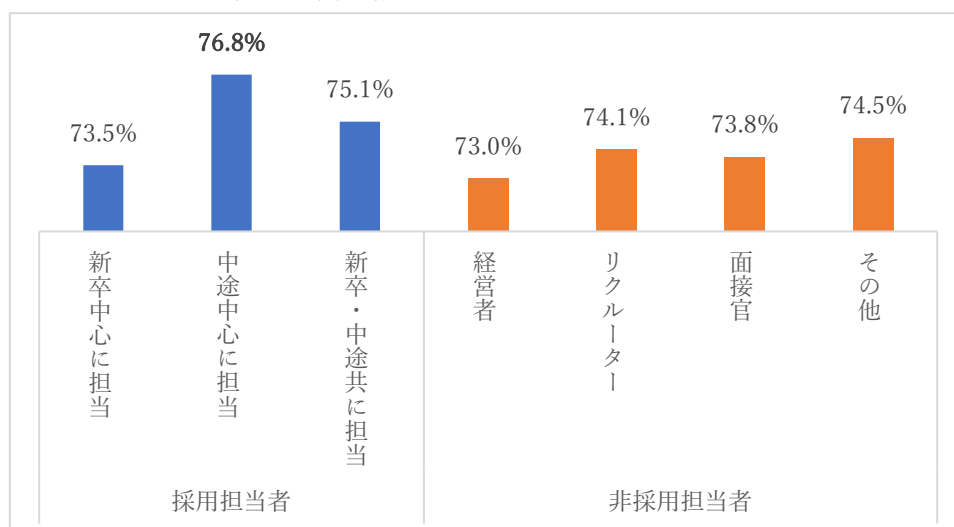
第3回採用力検定の受験者全体の正答率は「74.5%」でした。第1回よりも2.0ポイント減少しています（第1回は66.9%、第2回は76.5%）。90%以上正答した受験者数が第2回よりも減少し、40%以上～90%未満が少しずつ増加しています。



正答率の分布

◆採用との関わり方と正答率

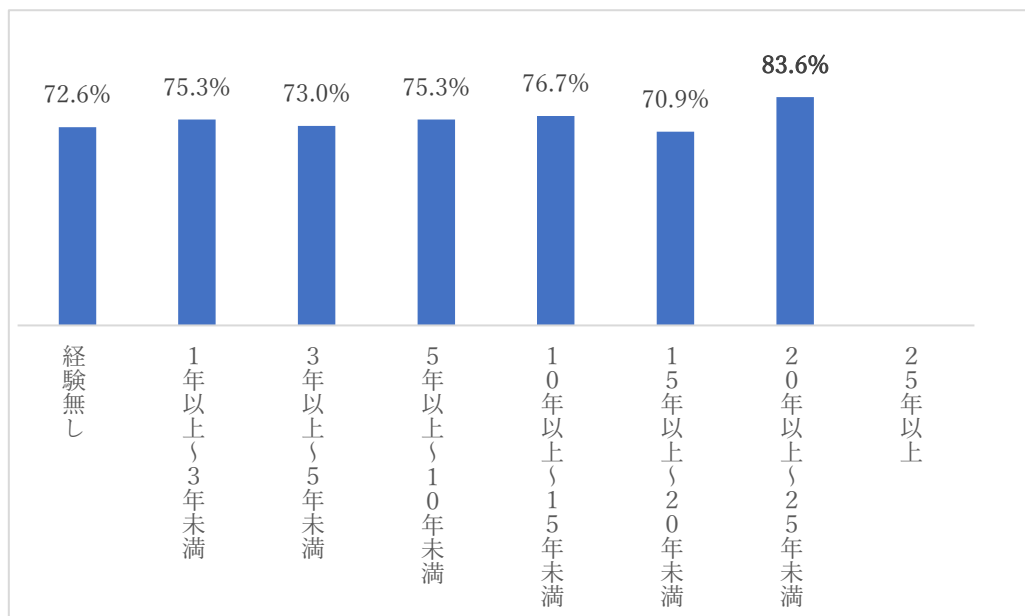
採用担当者の中では中途中心に担当している方の正答率が高く、採用担当者以外では、その他、リクルーターの得点が高い傾向にありました。



正答率×採用との関わり方

◆人事の経験年数と正答率

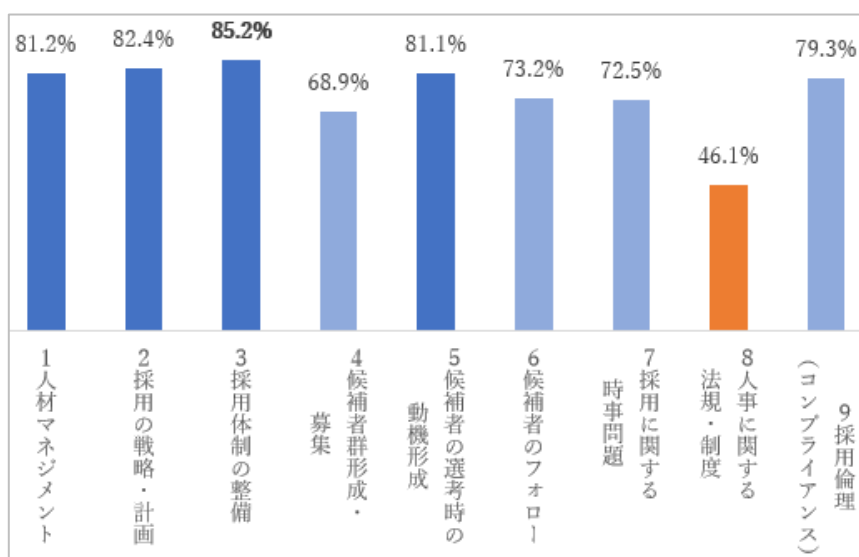
人事の経験年数による差はそこまで大きくありませんが、15年以上～20年未満が最も低い結果となりました。一方で、20年以上の人事経験者は8割を超えていました。



正答率×人事の経験年数

◆領域ごとの平均値

相対的に正答率の高い領域は、採用体制の整備、採用の戦略・計画、人材マネジメント、候補者の選考時の動機形成などでした。逆に正答率の低い領域は、人事に関する法規・制度でした。選考に関わる事前準備に関する知識は充実している一方、人事労務に関わる法制度の理解には課題があると言えます。



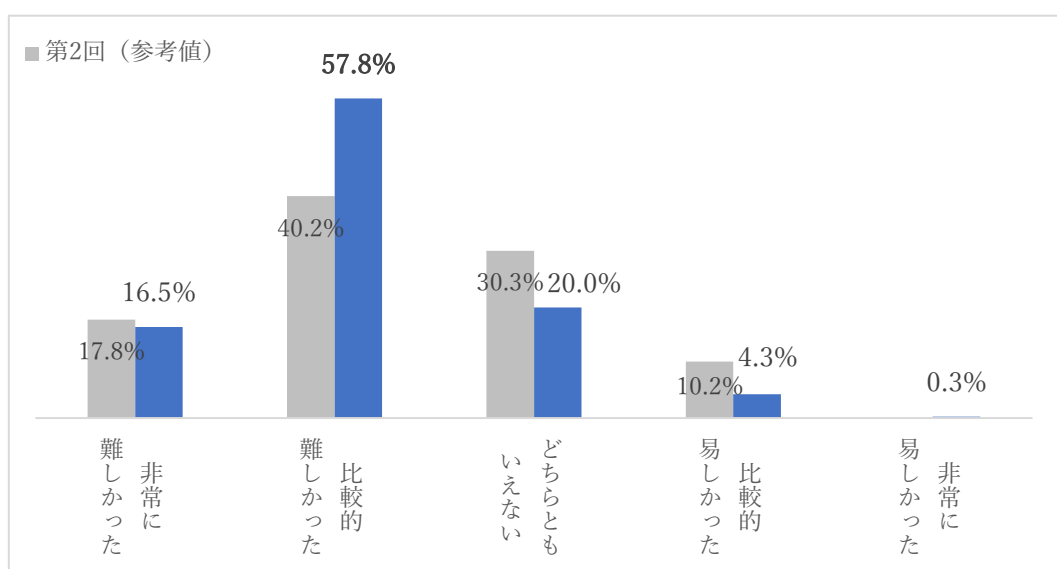
正答率×回答領域

3. 難易度と事前学習

最後に、第3回採用力検定の受験者による主観的な難易度、及び、検定に先立つ学習状況について紹介します。

◆主観的な難易度

第3回採用力検定の難易度については、比較的難しかったと感じる受験者が第2回より増加し、全体の過半数を占めました(第2回は40.2%)。第2回から「どちらともいえない」「比較的優しかった」が減少しており、やや難化したと考えられます。

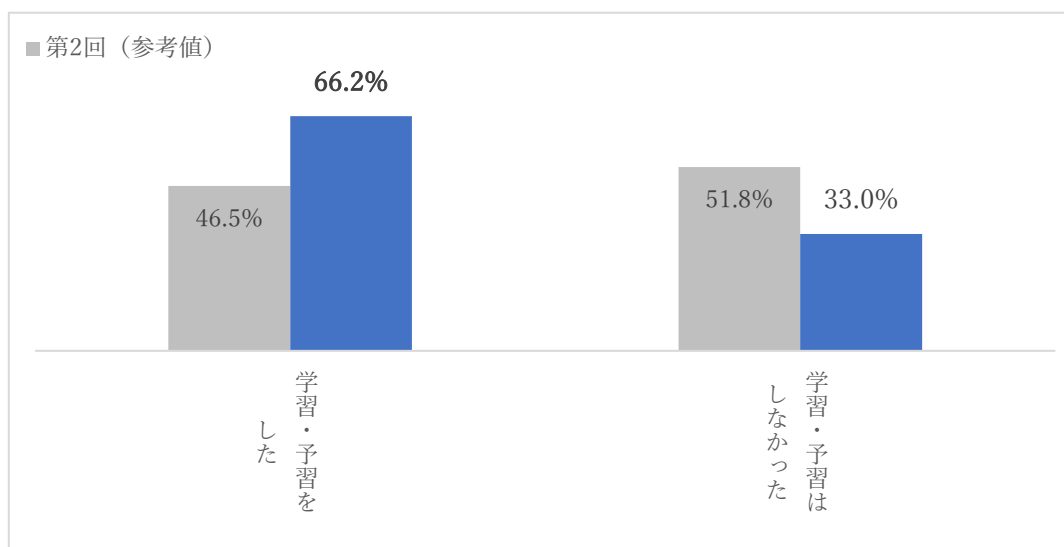


質問4 (採用力検定試験を受験してみて、難易度はどう感じましたか) の回答分布⁴

⁴ 欠損値 (1.1%) は除外しているため、合計は100%にならない。

◆事前学習の有無

第3回採用力検定の前に予習を行った人は66.2%で、予習を行った人の割合が、行わなかった人の割合を上回りました（第2回は46.5%）。このことが正答率の底上げに繋がったと考えられます。



質問5（採用力検定試験受験に際し、学習・予習（参考図書を読む等）をしましたか）の回答分布⁵

以上

⁵ 欠損値（0.8%）は除外しているため、合計は100%にならない。